

活動報告書

報告者氏名：内田 利幸

所属：名和小学校

記録日：2015 年 2月 25 日

【対象児の情報】

- ・学年：小学5年 男児
- ・障害：読み書き障がい注意欠損多動性障がい（AD/HD）
- ・困難の内容
読んで理解することが苦手。気がそれやすい。

【活動目的】

- ・当初のねらい

①VOD(daisy 教科書)を使って文字情報を理解する下支えをする。

②Book Creator等のアプリを使ってテスト問題の読み上げを聞きながらテストを受け、本来持っている理解する力を出させる。



- ・実施期間 H26年5月14日～H27年2月24日

- ・実施者 内田 利幸

- ・実施者と対象児の関係

通級児童とその担当教員

通級にて週1時間(45分)の授業を行うことに書類上はなっているが、他校通級のため行事や送迎の問題等で授業ができないことがあり、実際の授業時間は月平均2時間～3時間である。

【活動内容と対象児の変化】

- ・対象児の事前の状況

- 読みが困難で、読みながらの意味理解は難しい(実施者の観察より)
- 漢字の読みは2～3年生程度だと思われる(実施者の観察より)
- 聞いての理解は概ね良好(Token Test から)
- 一斉学習の場での学習に対する取り組みは消極的(前担任からの聞き取りや実施者の観察より)
- 家庭では音読はしない(保護者から聞き取り)
- 通級等の個別の場では取り組みは概ね良好(実施者の観察より)
- 不注意傾向有り(実施者の観察より)
- 算数の計算はできる(前担任からの聞き取りや実施者の観察より)
- 理解する力はある(前担任からの聞き取りや実施者の観察及び知能検査の結果より)
- じっくり考える事が苦手(実施者の観察より)
- テストでは諦めて早々に投げ出してしまう事が多い(前担任からの聞き取り)
- よく気がつき、困っている人にいち早く気づき、サポートできる
- 側についていて声をしながらなら学習が進むが一斉の中では難しい(前担任からの聞き取り)

- ・活動の具体的内容

上記の事前の状況を踏まえ、まずは内容理解を支えるために、①Daisyによる介入を行い、その後平行して②読み上げテストも実施した。さらに当初のねらいにはない取り組み③その他(漢字や計算等)も行った(行っていた)

①VOD(Daisy 教科書)を使っての文字情報の理解

○機器の操作に慣れること、内容理解を支えることを目標に、通級の授業の中でVODを使って見聞きしたり追い読み等の方法で読む練習をしたりした。

○6月後半からVODを使って家庭での音読(※)を開始した。(※音読とはVODを使って見聞きすることも含める)

②Book Creator 等のアプリを使ってテスト問題の読み上げを聞きながらテストをし本来持っている理解する力を発揮する

○1 学期:まずは通級の場で実施者がテスト問題を読み上げるのを聞いてテストをする方法で行った。テストは数か月前に在籍学級でやったものと同じテスト問題を使った。結果は読み上げを聞いてする方が良かった。

○夏休み中～2 学期はアプリが読み上げる方法で行い、3 学期はテストに似た形式の読解問題を指導者が読み上げる形で行った。結果は以下の表のとおりである。

表

	テストの種類	読み上げなし	読み上げあり	読み上げに使用したアプリ
夏休み	A 既習文	65	100	Book Creator
	B 初見文	60	80	Book Creator
	C 初見文	10	55	Book Creator
2 学期	D 既習文	70	50※1	Note Legde※1
	E 既習文	50	50	Book Creator
	F 初見文	75	100※2	MetaMoji Note
	G 既習文	85※3	35※3	MetaMoji Note
	読解問題の種類	読み上げなし	読み上げあり	
3 学期	H 初見文	30	40	指導者による読上げ
	I 初見文	25	85	指導者による読上げ

※1 ある程度このアプリの使い方を練習してから行ったが練習がたりなかったかもしれない。

※2 このテストからアプリが変わったために、指導者が本児の側にいて操作方法等を説明しながら行った。

※3 このテストだけは読み上げありで先に行いその後(その日のうちに)、在籍学級で自力で読み上げなしのテストを行った。



③その他(漢字や計算等)

○授業中に簡単に『例解国語辞典』『筆算』『筆順辞典』というアプリを紹介した。「こんなアプリもあり、こういう場面で使えるよ」程度の説明しかしていないものを家ではよく使っていることが分かった。家庭で宿題の漢字調べや筆算の答え合わせ等に頻繁に使っているようだ。

○保護者から「1 年生の漢字から復習をさせたい」という要望があり、漢字のアプリ(『小1 漢字(5 年生まで)』)を入れて1 学期の懇談で保護者に説明した。冬休み前に履歴を見るとすべての漢字を4 回以上書いていた。

○この子が興味があるのではと思ったアプリをいくつか入れておいた(保護者には連絡済)が、その中で『筆順辞典』『工場見学』『Y! あんしんねっと』はよく使っていたようである。『例解国語辞典』と『筆順辞典』は使い分けており、『例解国語辞典』は読み方や意味を調べる時に、『筆順辞典』は書き順を覚えたり漢字を書く練習をする時に使うと言っていた。また『Y! あんしんねっと』でポケモンやマジ等を調べていたようである。

・対象児の事後の変化

①VOD(daisy 教科書)を使っての文字情報の理解

○1 週間前の初見の時に自分で読んだ時は内容は殆ど理解できていなかったが、次の通級時(1 週間後)には概ね内容理解ができていた。→VOD は多くの量を聞いて理解するのに有効性があるようだ。

○音読も練習したところはとてもスムーズに読むことができるようになった。しかし、音読を大人に聞いて



もらっていなかったためか、多くはないが誤読が修正されていない部分があった。その部分では内容理解が浅かったように思われる。→「スムーズに読める」＝「内容理解ができる」ではない。この子はある程度スムーズに読めるようになったことを褒めてもらって多少の満足感(達成感)はあったようだが、音読はねらいとする読解には繋がっていないようだ。

②Book Creator 等のアプリを使ってを聞きながらテストをし、本来持っている理解する力を出させる。

○本児は1学期は読み上げて行うテストは分かりやすいと言っていたが、2学期はあまり良さを感じていないようだった。→表の結果とこの子の気持ちから、今のところこの取組は有効ではないと思われる。

③その他(漢字や計算等)

○宿題の漢字は特にこの子にとって調べる術がなかったようで、このアプリを使うまでは保護者に正しい漢字を書いて教えてもらっていた。保護者に教えてもらえない時は、宿題が出来なかったようである。宿題を一人でできるようになって良かったと言っていた。(保護者も喜んでおられた)

○『工場見学』『Y!あんしんねっと』等で興味のあるものを見たり調べたりできていいと言っていた。保護者はこのことによって寝る時間が時々遅くなるのできちんと約束(きまり)を決めないといけなと言っておられた。→無理やり使わされている感が強いVODより、これらがこの子にとって一番『杖』に近いものとなっているようだった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

○「読むのが苦手」→「音の支援」という捉えで取り組みを始めた。Daisyを使う事によって今までできなかったことができるようになった。しかし取り組みを進めていく中で、実際のこの子の姿からこの捉えは正しくなかった。

○この子の様子から「不注意」や「情報量の課題」がうかがわれるようになった。

・エビデンス

◇不注意について

○学習中に耳栓を使用した。最初に付けた時のこの子の「集中できそう」という言葉や外した直後の「わ！色々な音がすげー聞こえる」という言葉から耳栓なしでは色々な雑音がたくさん聞こえていて集中を妨げていることが予想された。

○2学期の後半「^{くにまつ}国松」を「^{まつもと}松本」という読み間違いがあった。読めるものから読んでしまい、続きは聞き覚えのある単語になるように適当につけてしまっている。この状態を見たときには眼球運動が原因でビジョントレーニングも必要ではないかと思った。しかし上記のようにふりがながあっても「国」より親和性の高い語「松」に先に食いついている(同じクラスに松本さんという児童がいる)、文末の勝手読みや助詞の読み間違いが多い、等の実態から考えると不注意によるものと考えるほうが自然だと思われる。

○テストの場面で「最後の問題のやり忘れがある」「『約二百グラム』という正答に対し『二百キログラム』と書く(約の書き忘れ、百という字の横線が1本多い、グラムなのにキログラムと書いている)」

これらのミスの大部分は簡単な声かけですぐに自己修正できる。

◇情報量の課題について

○この子の気持ちは現在の所「VODは、まあ使ってもいいかな」「テストの読上げは、あってもなくてもいい」というものだった。特にテストの読上げの有効性を感じていなし、良い結果も出ていない。これはテストと

いう少ない情報量と教科書という多い情報量への読み上げのニーズの違いによるものではないかと推測される。

・その他のエピソード

○読み上げを利用してテストをする際、聞いて解答が分かってでもそれが本文のどこに書いてあるか探すことなく聞きながら解答欄に書いている(聴写)こともあり、何度も止めて聞き直す場面があった。もっと効率よく解答できる方法を一緒に考えた結果、次の2つの方法を試してみることになった。「答えを見つけたらそこに線を引いてから答えを書く①」「解答を見つけるためにその手掛かりになる言葉(キーワード)を○で囲む②」声掛けをしながらその方法を使うと、聞き直すことなく写せたり、キーワードを見つければすぐに答えを見つけたりすることができた。問題HやIをする場面を見たり、思考過程をこの子から聞いたりすることによって、上記の2つの方略を身につけることが良いと思ったが、声かけがないとそれを忘れるため、一人でやり終えることができるという状態にまではなっていない。

・今後に向けて

①不注意への介入について：

○ノイズキャンセリングヘッドホンも試す。

○テストの際、上記の方略(①②)も声かけがあれば忘れること無くできるが、声かけがないと忘れてしまうことがある。「一人でやり終えることができる」ようにするためには、付箋に「答えに線、キーワードに○」と書いて問題用紙に貼る、慣れてくれば目印としてのシールにするなどの『確認する手立て』を行う。

②情報量の課題について：

○情報量を調節し、この子が余裕を持って取り組める量から始め、自信が持てた後に様子を見ながら少しずつ量を増やす取り組みを試みる。

③通級としての役割：

○この子の特性に応じた支援方法を在籍学級の担任の先生と共有していく。具体的には、テストの際に上記の付箋を使うこと、耳栓(ノイズキャンセリングヘッドホン)の使用、音読の量の調節、宿題の量と質(一人でやりきれる量)の調節などである。量や質を調節する場合、機器を使える場合とそうでない場合も考慮する必要があると思われる。

取り組みを通して

○結果的に児童の見取りが間違っただけで、機器を使用し本来介入すべきところへの取り組みが遅れた。見える事象の背景にあるものを見抜く力が不足していた。例えばこの子の「VODは、まあ使ってもいいかな」「テストの読み上げは、あってもなくてもいい」という状況から『情報量の差』という所への気付きはできなかった。○VODは、読みが苦手な原因の多くは音韻的なものや視覚認知の問題だと思っていた。不注意が原因の場合もあると知り、目から鱗だった。本児以外にも私がかかわっている児童の中でこのように不注意が原因と思われる児童がいる。この取り組みを通してこのような気づきを勉強させて頂き、貴重な経験をさせて頂いた。今後の指導(他児への指導も含めて)に大いに役立つと思われる。

アプリについて：

テストの読み上げに使えるような4つのアプリ(Paintone, Book Creator, NoteLegde, MetaMojji Note)につい

て使用しての感想を表にまとめた。写真に複数の音声・テキスト・手書き図形が貼り付けられる、など基本的なことはどれもできるが、以下は再生時の使い勝手を中心に実施者の私見を書いたものである。

アプリ	内容
<p>paintone</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 書いた図形に録音でき、それを触ると再生できる 一時停止はできない。 再生中に録音された図形(同じ図形でも違う図形でも)をタップするとそれぞれ再生され音がかぶる。 その図形をピンチイン、アウトすることでボリュームの調節ができる 録音時間が比較的短い (高学年の国語のテストでは録音時間が短くて使いにくい) 
<p>Book Creator</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 再生途中に一時停止し、また再生するとその続きから再生される 録音は既成のスピーカマークにされ、その形の大きさは変更できる。(再生するためにタップした時に意に反してマークが移動してしまうことがある) 
<p>NoteLegde</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 再生途中に一時停止した再生すると最初から再生される 録音は既成のマークにされ、その形の大きさは変更できない。さらにテストに使うにはそのマークはちょっと大きい 録音マークは固定されており再生時にタップしても動かず使いやすい 
<p>MetaMoji Note</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 途中からでも再生でき、聞きたいところが比較的見つけやすい 再生位置が赤線で示され、ドラッグして移動できる 録音後チャプターの挿入・編集できる クラウドサービスやメール等でデータの共有が簡単にできる 再生を始めると停止ボタンを押さなければ続けて次のチャプターも自動で再生してしまう 